

## ご挨拶

学長 平林春行



本学は昨年度創立二十周年を迎えました。記念式典には、同窓生はもとより地元王寺町や文部科学省の方を始め多くの関係者が足を運んでくださり、私たちとともに創立二十年の栄を祝っていただきました。誠に有難く感謝の気持ちでいっぱいです。集っていただいた方々の期待に一層応えていくとともに、白鳳短期大学を必ず日本一の短期大学にしなければならないと思っています。

ご存知のように、本学は総合人間学科（国際人間学専攻、こども教育専攻、リハビリテーション学専攻、看護学専攻）と専攻科（地域看護学専攻、助産学専攻、リハビリテーション学専攻理学療法学課程、リハビリテーション学専攻言語聴覚学課程）の学問分野を擁し、地域に貢献し、四年制大学以上のシステムを有する短期大学へと成長させていただきました。これも同窓生のみなさんのご活躍とご支援の賜物であると思い、ここに厚く御礼を申し上げます。

今までに多くの卒業生、修了生が社会に巣立ち活躍してくれています。最近よく耳にするのですが、「白鳳の出身の方は良いですね。よく頑張ってくれています。」「白鳳の学生の実習なら引き受けたい。」「白鳳の学生なら是非採用したい。」などのお言葉を、同窓生たちが働いている、あるいは実習で指導をいただいている各施設の皆様からいただきます。たいへん有難いことです。このような評価が、在学生たちの励みになり、これからの白鳳短期大学の発展に大きく繋がっていくものであると思います。だからこそ、私たち教職員は、これから本学が輩出する学生たちの力をもっと大きく確かにするために、同窓生の声にしっかりと耳を傾け、いかにその力を養っていくべきかを常に考えていかなければなりません。そして、在学生がみなさんの活躍に続いていかれるよう努力してまいります。

同窓生のみなさん、今後もぜひ同窓会に足を運んでいただき、在学生や私たち教職員に熱いエールを届け見守ってくださいますよう切にお願いいたします。

## 卒業生のみなさんへ

副学長・こども教育専攻長 西浦将芳



卒業生の皆さん、それぞれの舞台で大活躍されていることと思います。副学長・こども教育専攻長を務めている西浦将芳です。よろしくお願いいいたします。

さて我が白鳳短期大学は2018年度に創立21年目を迎えることができました。これは創立当初から本学教育に関わっていただいた多くの皆さんや卒業生、学生のおかげと感謝しております。

現在、国内を見れば少子高齢化が止まらず18歳人口が大学入学定員と同程度にまで落ち込むという所謂2018年問題が日本全体に重くのしかかっています。少子化は先進国の宿命のごとくに語られますが、これほど急激に激しく減少する少子化を経験した国家はありません。今のところ有効な手だてを知る者はどこにもいません。

また世界に目を向ければ民族、宗教をめぐる対立がとどまらず内戦状態に陥っている地域が複数存在します。またそれらの地域から戦乱を逃れて周辺諸国に流入する「難民」が大きな国際問題となっています。それが原因と思われる経済のブロック化を目指すグループや民族主義的、排他的な考え方が大きな力を持つような報道がなされています。このままの状況が続くようであれば、世界経済は停滞し格差が広がり続けるでしょう。このような混沌とした世界情勢のなか日本は高いモラルと寛容を世界に示し存在感を増していかなければなりません。

本学では建学の精神のなかで「人間とは何か」「自己とは何か」という真摯な問いかけと、「自己をみつめ、他者を知る」真の国際人の育成を謳い上げております。その建学の精神のもと、本学では開学以来「西大和学園グループ」のひとつである「西大和学園カリフォルニア校海外教育センター」を拠点として、海外研修を実施し異文化を体験し英語を学び、海外におけるそれぞれの専門分野を勉強するプログラムを提供して参りました。

今こそ「人間とは何か」という問いかけを探求し、人間はどうあるべきか、人間はどう生きねばならないのか、自己の在り方を真摯に見つめ、幅広い視野で物事をとらえ変化に柔軟に対応できる適応力が求められている時代といえます。本学が「総合人間学」のもと、各専門分野の専攻を配しているのも「人間」こそ原点という思いに因っています。本学は専門的な知識、技能のみならず、国際的な感覚、そして人として、豊かな「心」を持った人材をこれからも大切に育ててまいります。

こども教育専攻卒業生の皆さん、今ほど幼児教育に国民の注目と期待が集まっている時代は過去になかったでしょう。白鳳短期大学の卒業生としての誇りを胸にこれからも皆さんの活躍をお祈りしています。そして毎年卒業していく後輩をよろしくお願いいいたします。

## ごあいさつ

副学長 中山 智子



白鳳短期大学同窓生の皆様におかれましては、益々お元気でご活躍のことと思います。

昨年度まで、看護系の専攻で副学長として教育してまいりました。

この度 4 月より、新たに医療系の専攻（看護学専攻・地域看護学専攻、助産学専攻・理学療法課程・作業療法学課程・専攻科理学療法・言語聴覚学課程）の任命受け教育に邁進しております。

地域に貢献するという重要な役割をになって積み重ねてきた本校の歴史とともに、ますますの発展、成長を遂げたいと考えております。

本校の特徴である総合学科と専攻科、特色である 3 年（総合人間学科）プラス 1 年（専攻科）内部進学制度をますます充実させ連携し、より強力なものへと発展させたいと考えております。

実習病院を訪ねますと、多くの卒業生をお見かけします。その堂々たる活躍ぶりは、輝いていてまぶしくうつりました。その姿は、自信に満ちあふれ、その成長に驚きと大きな感動を覚えました。

本校の教育として、人間力を中心に考える力を重要とし「ライセンス習得」の目標に向かって在學生は、日々努力をしています。教育者として、「常に、教育になったか？」を考えることを積極的に継続したいと考えます。

この考えをもとにクリティカルに考える力を養い、社会に貢献できることを教育の目標として進んでまいります。

卒業生の皆様が、母校に帰り教育者として一緒に教育できたら素敵であると考えます。皆様方の益々の御発展を心より祈っております。

## ごあいさつ

同窓会会長 奥村 茉由



白鳳短期大学同窓会の会員の皆様におかれましては、益々のご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素は同窓会活動に深いご理解とご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

今年度、同窓会会長を務めさせていただきます。奥村茉由と申します。現在は、奈良県の私立幼稚園で3歳児の副担任として勤務をしております。初めは、子どもとの関わり方、保護者の方との関わり方、日々の保育内容や教育の仕方、さらには礼儀作法や上の先生方との関わり方等、分からないことや不安なことが数え切れないほどありました。しかし、一緒に保育を行う担任の先生や上の先生方、園長先生にもご指導をいただき、たくさんのことを学び、身につけることができました。

保育の世界は私が考えていた以上に力仕事が多く、園内を駆けまわりながら毎日を送っております。発表会やその他の行事の準備に追われ大変ですが、同期の先生とも手と手を取りあいながら楽しく仕事をしております。この、仲間と手を取りあい進んでいくしんどさや楽しさも白鳳短期大学で学んだことだったとふと思い、白鳳短期大学でたくさんのことを教えてくださり導いてくれた先生方、そして一緒に道を進んだ仲間たちに心から感謝を申し上げたいと思いました。

もうすぐこの幼稚園に務めて1年になります。色々なことがあると思いますが楽しみながら毎日を過ごし、堂々と保育を行い、子どもたちと手と手を取り合えるような先生を目指し、日々精進して参りたいと思います。

末筆ながら、同窓会会員の皆様の益々のご活躍、ご健勝と母校白鳳短期大学の益々の発展をお祈り申し上げます。

# 近況報告

## 大和大学

日本有数の総合大学をめざして、2020年4月「理工学部」開設予定！

JR 大阪駅から9分、吹田駅下車すぐという関西で最もアクセスに恵まれた環境に開学した大和大学。教育学部、保健医療学部の2学部からスタートし、2016年には政治と経済を横断的に学ぶ西日本唯一の政治経済学部を開設しました。2020年4月には理工学部を新設し、数理科学、機械工学、電気電子工学、情報科学、建築学の5分野で多彩な研究テーマを設け、未来を創造していきます。新たに最新設備が整う学部棟建設とキャンパス拡張工事がスタートしています。また、今後とも社会学部、農学部、国際学部、薬学部なども順次設置し、将来的には6～7学部、学生数5000～6000人規模の総合大学へ成長させていきます。



どうぞ、今後とも大和大学にご注目いただくとともに、いっそうのご声援を賜りますようお願いいたします。

## 西大和学園中学校・高等学校

本校は、スーパーサイエンスハイスクール (SSH)、スーパーグローバルハイスクール (SGH) に指定されており、大学生にならないと知ることができない世界に踏み込み、論文を仕上げ、東京大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST) 等の先生方の力を借り、様々な課題にチャレンジしている。

SSH では近年、生徒たちの研究成果が高く評価されるようになってきた。生徒たちは最先端の科学に向き合い、その内容を多角的に、主体的に捉え、その研究内容を未



来の国際社会のために活かす覚悟で取り組んでいる。

また、SGHでも、地球規模で進行する諸問題に正面から取り組んでいる。アジア地域を訪問し教育・産業・交通・通信を軸にグループごとに分かれ、社会問題の原因を究明し、解を求め、解決に導くビジネスプランの作成を行っている。企業、大学、NPO法人等との連携を図ることや、校内募金活動、ボランティア活動を通して、プランの有用性と実効性を相互に検証してきた。

英語で行うプレゼン能力をさらに磨き、グローバルリーダーとして着実にその力をつけている。模擬国連では全国大会出場を重ね、4年前に優秀賞を受賞した世界大会に出場を再び実現しようとしている。

中学校では、本校独自の英語教育が実を結び始め、中1の体験学習、中2の探究プログラム「クエスト」そして、中3の卒業研究を通して、論理的思考力のみならず、探究心、科学的リテラシーの向上をめざし、高校のSSH、SGHへとつなげている。

こういったグローバルな活動は、生徒たちの将来のビジョンを明確にし、目指す大学への情熱を生んでいる。

平成30年度は東京大学へ30名、京都大学へ57名、国公立大医学部医学科に58名が進学した。また、近年、東京大学を目指しつつ、ハーバード大学などの世界トップ大学・大学院で学ぶ必要があると感じている生徒が増えている。

知識を入れ、運用し、もっともっと学校の外で学び、学校の外からも多くの指導者を招き、主体性を持って、多様な人々と協働できる人材を育てていく西大和学園の改革はまだ続く。

## 西大和学園カリフォルニア校

学 園 長 西 川 勝 行

白鳳短期大学同窓生の皆さん、こんにちは。海外教育センター企画の専攻別のアメリカでの研修に参加された方は、NAC 附属機関の海外教育センターでも、関わらせてもらっております。

白鳳短期大学の同窓生の活躍と大学の躍進ぶりを多くの先生方から聞くにつけ、遠く離れたロサンゼルスでも大変喜んでおります。

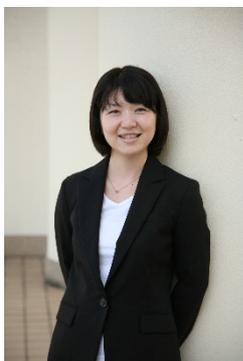


それではこの場をお借りして、私たちの学校 NAC (Nishiyamato Academy of California) の近況について紹介させていただきます。本校は、創立 26 年目のアメリカ西海岸唯一の文部科学省認定の「私立全日制日本人学校」です。学校はロサンゼルス空港から車で南に 30 分の距離です。ここロサンゼルスの日本人コミュニティでは、知らない人がいないまでに成長し、当地における日本人教育の一翼を担っております。この地域は日本人がとても多く在校生のほとんどがこの地域の日系企業の駐在員の子供たちです。幼稚園、小学校、中学校の 13 学年で約 160 人の子供たちが在籍しております。また 2002 年より土曜補習校を開校し、当初 6 名だった子供たちが、この 4 月には約 660 名になり全日制、土曜補習校合わせ 800 名を越える大所帯になり、学校全体が活気に満ち溢れています。また、6 年前にサンノゼ (シリコンバレー) 地域にも幼稚園が開園しました。NAC では、子供たちの個性を伸ばし、豊かな人間性と感性を育み、思いやりのある真の国際人の育成を目指すことを教育目標として日々懸命に取り組んでおります。これからもこのカリフォルニアで、日本の白鳳短期大学の同窓生および現役学生の皆さんに負けないようにがんばる子供たちを育てていきたいと思っておりますので、白鳳短期大学の皆様方には、今後とも暖かいご支援とご声援を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、冒頭で述べさせていただきましたとおり、NAC は海外教育センターを併設しており、白鳳短期大学の学生の皆さんの海外研修プログラムの企画・運営を行っております。ではまた、海外研修等でお出あいできることを楽しみにしております。

## 各専攻より

国際人間学専攻 専攻長 辻田真智子



卒業生のみなさん、お元気ですか。それぞれが日本や母国で大いに活躍されていることと思います。今、日本は深刻な人材不足に陥っており、外国人の雇用拡大が大きな議論となっています。また、日本に来る留学生の数も年々増加しています。近い将来、日本には今以上に多くの外国人がやって来ることでしょう。そんなときこそ、日本語と日本文化の知識を身につけたみなさんの出番です。今後ますますみなさんの活躍の場が広がっていくはずで、白鳳の留学生が就職した企業や関係者の方からよく白鳳卒業生はコミュニケーション能力が高いとお褒めいただくことがあります。この白鳳のアットホームな雰囲気の中で多国籍のクラスメートと共に和気藹々と勉強に励んだ結果だとは思いますが、やはりそのような評判が上がるのは卒業生のみなさんのがんばりのおかげです。卒業生のみなさんが立派に活躍しているからこそ、後輩たちも活躍の場を得ることができ、またそれが今後白鳳に入学してくる留学生達のやる気にも繋がります。私たちも卒業生のみなさんの頑張っている様子を聞くのは本当に嬉しく、日々の活力になっています。これからもぜひそれぞれが白鳳卒業生代表としてがんばってください。みなさんの活躍を応援しています。そして、時間があれば、時々近況報告に来てくださいね。楽しみに待っていますよ。

リハビリテーション学専攻専攻長 成田亜希



みんな、元気になっていますか？平素は在学生在が実習で大変お世話になっております。後輩育成のために一生懸命に指導をしている姿を見ると本当に幸せな気持ちになります。ありがとう。これからもよろしくお願い致します。

近況報告です！1つ目は、この3月に理学療法学課程から初の男子学生が卒業していきました。男子学生の3年間の成長は本当に素晴らしかったです。みんなたくましく社会に出ていきました。女子学生は開設当時から変わらず、本当にしっかり者が多いです。必ず社会で活躍すると信じています。専攻科言語聴覚学課程・理学療法学課程から卒業した学生は自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動できる学生ばかりでした。臨床でもリーダー的存在として力を発揮してくれることと思います。2つ目は、今年度、作業療法学

課程が3年目をむかえました。作業療法学課程1期生が国家試験に挑みます。応援して下さいね。

今は大所帯で学生も教員も毎日元気よく頑張っています。是非在学生のところに来て、臨床の話をたくさんしてあげて下さい。卒業生が学校に顔を見せに来てくれることが一番嬉しいです。よろしくお願い致します。

今年の卒業生へ 臨床に出たばかりのリハ学専攻9期生、専攻科リハ学7期生は、もうたくさんの患者様を担当させて頂いていますよね。「早くいい治療ができるようになりたい!」と焦っているでしょうね。まずは先輩のマネをして下さい。答えはそこにあります! 「患者様のために」ではなく、「患者様と共に」歩んで下さい。頑張ってくださいね。

## 同窓会報の言葉

看護学専攻 諸喜田美恵



白鳳短期大学同窓生の皆様におかれましては、益々お元気で活躍のことと思います。

初めまして今年度より専攻長に就任いたしました、諸喜田美恵と申します。

白鳳短期大学は創立20周年を迎えこれまで看護学専攻では11期生までが卒業しました。数多くの就職施設から皆様が活躍されている近況報告が届いており、活躍をされている皆様の存在は在学生にとってあこがれであり目標となっております。

看護学専攻の教育目標として人間力と看護を考える力の育成を目指し、日々学生と共に看護学を追究し教育をしております。白鳳短期大学で学んでいる在学生や卒業生と出会うことがありましたら、ぜひ一度看護について語り合ってみてください。そして母校を懐かしく思い出していただけたら、皆様が培った看護を語りに学校に立ち寄ってください。つい最近も度々卒業生が訪ねてきてくれました。その姿は看護師、プロとして成長しまぶしく目にうつりました。皆様方の益々の御発展を心より祈っております。

専攻科地域看護学専攻修了生のみなさんへ

専攻科地域看護学専攻 専攻科長 畷 素代



2018年4月に12期生40名が入学しました。地域看護学専攻が開設されて11年が経ち、2018年3月に修了した11期生を含め修了生は420名となりました。2018年は全国各地で自然災害が起こり、近畿地方でも大阪北部地震、台風21号と立ち続けに災害が起こりました。災害が起こるたび全国にいる修了生のことを思い出し、住民さんのために一生懸命に活動しているのだろうな、頑張りすぎているのかなと思いをはせています。

全国各地に本学の修了生がいてくれることは本当に心強いかぎりです。自然災害は避けて通ることができません。平常時からの保健活動で減災に努め、発生時には本学で培った「底力」を発揮してください。今後の活躍を期待しています。

皆さん「白鳳卒業」の看板背負ってがんばってるね

専攻科 助産学専攻長 湯川竹子



専攻科 助産学専攻の同窓生の皆さん、こんにちは、お元気ですか。教員千田、雨水、湯川も元気です。

今年も実習施設へ行くと卒業生にお目にかかれました。ご活躍を目の辺りにし、卒業後の成長振りをみて、社会に出て、臨床卒後教育の賜物と同時に、生命を守る責任を負うとこんなに成長できるのかと感じました。白鳳卒業の諸先輩方が指導担当していただくことも多くなり、愛情を持って学生指導をしていただき大変嬉しく思います。卒業のときに私が後輩指導について説いたことを覚えていてくれていると実感しました。しかし実際卒業生として恥ずかしい思いをしたこともあると思いますがお許してください。

現在新人は仕事と卒後教育についていくのに精一杯の毎日でしょうか。まずやる気が大事です。又、社会人としての自己成長をしていくことです。医療職はストレスが多い職場です。ストレス回避のためにはON, OFFを使い分けておきましょう。

私は「仕事は楽しく」がモットーです。仕事を機械的にこなしていると楽しくは出来ません。感性を磨くことと何にでも興味を持つことが一番だと私は思います。

卒後数年以上の皆さんは助産師の専門性は生かしていますか？  
というのは、産科病棟以外や老健施設でも地域でも女性の一生やその家族を支援する専門

性を助産師は持っています。それを行かせるような助産師として頑張ってもらいたいです。自身も出産体験された方もあり、助産観が変わったかもしれません。どんどん自己パワーアップしていきましょう。

現在地域包括事業推進や周産期における施設の区分と役割の明確化によって、そこに働く助産師同士や他職種の縦や横のつながりが重要になってきます。

白鳳短期大学の助産学は12年目ではありますが、他校と比較して1年の卒業生数が多く、また他の専攻においても卒業生数が多いので、今後「白鳳卒生」として連携を保ちやすいと考えます。

今後も「白鳳卒生」看板に恥ずかしくないような行動で、社会貢献に励んでください。またお目にかかれる日を楽しみにしています。

## 卒業生より

専攻科 助産学専攻 11期生 (2017年度卒業) 本塩結衣



「大阪急性期総合医療センター」の小児科で勤務しています。

私が働いている小児科病棟は肺炎や川崎病など急性期疾患から脳性麻痺など幅広く、沢山のこどもが入院しています。

新生児から15歳までの発達、発育の幅があり、人数も多いので子ども、家族のかかわり方やケア方法を諸先輩

たちに助けをいただきながら、日々頑張っています。

時々、学生時代に小児実習でこどもにうまく検温ができなくて困った経験や助産学実習で出産後の育児不安を訴えていたお母さんは今どうしているのだろうか。と思い出す時があります。学校で学んだことが今になって結びついてきたことも沢山あり、白鳳短大で学んで、頑張っただけだと感じています。

これからも子どもとその家族が笑顔で退院できるように頑張ります。

専攻科 地域看護学専攻 藤本 有美子



現在、私は三次医療機関病院・災害拠点病院の救急病棟の看護師として働いています。そして、事故や急病にあわれた患者さんや家族さん一人一人に寄り添い、安全・安楽を提供出来るように日々フォローの先輩看護師の指導のもと頑張っています。

保健師になるために1年間地域看護学専攻に入学したにも関わらず、看護師として働いていますが、救急病棟に就職したことで保健師の役割や必要性について改めて考えるようになりました。

例えば、救急は脳疾患や心筋梗塞など突然発症することや家庭内の事情などにより薬物中毒やオーバードーズで救急搬送される患者さん(子どもから高齢者まで)がいらっしゃいます。そのような患者さんを見ると、病気の予防の大切さや、生活の質を高めるための健康教育や住民さん一人一人にあわせた家庭訪問を行い身体的・心理的ケアを行うことの必要性について改めてわかるようになりました。

また、最初の頃は、看護技術や病態について考えることに必死でしたが、最近は患者さんの今後に向けての支援について少し目を向けることが出来るようになった気がします。それは保健師の実習や講義で、住民さんのQOLを維持・増進し、医療や介護を受けながらも住み慣れた地域で暮らしていける社会を目指すことについて学習してきたからだと考え

ます。また、私が働いている地域の特性について興味をもち目を向けることが出来ているからこそ、切れ目のない医療や連携をどのようにするのかを意識することに繋がっていると感じます。今後は保健師の知識を持った看護師として、患者さんや家族さんを地域に繋げる橋渡しとして私なりに活躍することが出来ればと考えています。

改めて、白鳳短期大学専攻科地域看護学専攻で様々な先生方や実習の指導者さん、地域の皆さんから学べたことに誇りを感じています。

### 専攻科リハビリテーション学専攻 言語聴覚学課程卒業生 北 幸恵



私はこの春に卒業し、大東市内の民間病院に就職しました。現在、言語聴覚士として勤務しています。

白鳳短期大学では理学療法学課程を経て、専攻科である言語聴覚学課程に進学しました。言語聴覚学課程では、高次脳機能、構音、発声、嚥下、聴覚といったこれまでに学んできた分野とは異なる分野を学び、講義や実習、国家試験対策と忙しい日々ではありましたが、知識を整理しながら自己研鑽し、学んでいけたのではないかと思います。

また、言語聴覚学課程では看護学専攻の卒業生や、現役の医療職として勤めていた社会人の方々とも学ぶことができ、言語聴覚士になるという同じ目標をもつ仲間として、教え合い、励まし合いながらチーム医療の礎を築くことができたことは貴重な経験でした。

臨床の場において感じることは、摂食・嚥下障害の患者様に対し、高次脳機能を含む先行期や口腔・咽頭期障害のみならず、ポジショニングの際に重要である姿勢保持に必要な頸部・体幹機能の障害にも大きく関与するため、運動機能の把握において理学療法学課程で学んだことすべてが繋がっており、摂食嚥下におけるアプローチでは着目して取り組んでいます。

まだまだ言語聴覚士として駆け出したばかりで、知識や技術が足りないと感じることも多いですが、職場の先輩方に恵まれ、相談とアドバイスをいただくことを繰り返し、日々患者様とともに歩んでいける言語聴覚士になれるように努めていきたいと思っています。

白鳳短期大学 総合人間学部 リハビリテーション学専攻卒業生  
石橋 佳奈



私は、現在茨木市にある総合病院に勤めています。

主に、入院患者様のリハビリを担当させていただいており、急性期から生活期まで様々な患者様の治療を行っています。

今春、白鳳短期大学を卒業し半年以上が経ちましたが、今でも王寺駅から通っていたあの日々を昨日のことにように思い出します。

学校ではたくさんの方のことを学びました。特に印象に残っているのは、“1つのチームとして同じ方向を向き、同じ目標に向かって協力しあう”ということです。

学生時代は、当たり前なことだと思いがらみざやってみると、なかなかクラスがまとまらず、随分悩みました。しかし、悩みながらもみんなで方向を合わせていき、国家試験の時はみんなで同じ方向を向き、協力しあうことができました。

この経験は、今働く上でも他職種間も円滑なコミュニケーションや治療において、とても役立っていると思います。知識や技術はもちろん大切ですが、“患者様のことを考え、今この方にできることや目標達成に必要なことをチームで考える”という考え方の土台を学校で教えていただいたと、働いている今この身に感じております。他職種とのコミュニケーションを頻繁に行うことで、その方の体の状態や心の状態などを客観的に聞くことができるので、その日の治療内容に必要なことを考えることができます。

もちろんわからないことも多々あり、治療場面での知識不足・技術不足を感じる日々ではありますが、今の職場でチームの一員として、患者様によりよい治療を提供し、その方にできることを考え、その方に寄り添える理学療法士を目指し続けていきたいと思っております。

2017年度 国際人間学専攻卒業  
ベトナム出身 DO VU HONG VAN (ドー ヴー ホン ヴァン)



私は2017年度に国際人間学専攻を卒業し、現在は大阪にある日本語学校で働いています。学生時代に学んだことは数えきれないほどありますが、その中でもスピーチ発表の時のことを今でも思い出します。先生に何度も繰り返し訂正し、指導していただいたおかげで、最初にできた物が最高なのではなく、満足せずにもっと良い内容を追求していくことこそが、より良い物を作り上げていくのだということを教えていただきました。最初は何度も何度もやり直して、大変だと思ったりしましたが、実はそれはとても大切なことだと気づき、現在もその思考が仕事でとても役に立っています。私は就職の道を選びましたので就職を目指す留学生の後輩たちにメッセージを送りたいと思います。日本での就職を目指す皆さん、日本の会社が外国人に求めているのは日本語ではありません。日本社会と職場のマナーを理解し、先の事を考えながら、今、しなければならぬことができる、日本の会社の働き方に対応できる人こそが日本の会社が欲しがっている人材です。学生の中に、日本人は細かいという考えを捨て、全てのことに意味があるのだと思って、日本語以外にも大切なことを学んでください。

私自身も就職して以来、足りないところばかり目立っていますが、それはまだ自分が成長できる証だと思って努力を続けています。白鳳の先生方の指導をしっかりと聞き、夢を叶えてください。

専攻科地域看護学専攻 看護学専攻卒業生 宮里真由



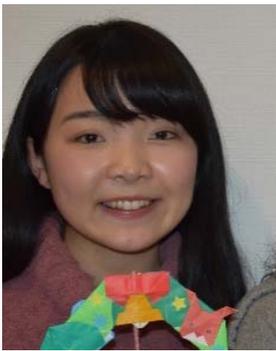
私は今春看護学専攻を卒業し、4月より専攻科地域看護学専攻に進学をしました。

看護学専攻の3年間では、「看護とは」を講義や実習で追究し、また国試問題を解きながらみんなでたくさん深め合いました。そこで対象を身体的・精神的・社会的三側面から総合的にとらえて、個別性に応じた看護を考え、対象の力を最大限に引き出すことの大切さを学びました。

現在私は、看護学専攻で学んだ「看護とは」を活かし、地域の皆様に貢献できる保健師になれるよう勉強・実習に取り組んでいます。保健師とは、集団を対象とした健康を考えることが多いですが、対象の持てる力を最大限に引き出せるようにお1人お1人を三側面から総合的にとらえ支援することが大切です。その時に看護で学んだ知識が地域住民の健康を考える上で私の基盤となっています。

私にとって白鳳で出会えた同級生や他専攻の友達は、現在も交流を図り楽しい時間を過ごせたり、様々な視点から現在の医療について話すことができる良い影響を与えてくれるかけがえない存在です。卒業生の皆さん、これからも白鳳での学びを活かしてそれぞれの道で活躍できるようお互いに頑張っていきましょう。

#### こども教育専攻 鈴木真帆



私は現在、公立の臨時保育教育士としてこども園に勤務しています。正規の保育教育士になるために、仕事をしながら採用試験に向けての勉強を頑張っています。勤務し始めた頃は、右も左も分からず一日を無事に過ごすのがやっとで、帰宅するとすぐに疲れて寝てしまうという日が続いていました。こども園という集団の中で子どもを保育することは想像以上に大変でした。集団保育をすることは簡単ですが、集団の中で一人ひとりの個の保育を行うことはとても難しく感じました。日常を過ごす環境の中でこども園という集団の場でありながらも、いかにして一人ひとりを大切にしていけるかが、今の私の課題です。新人保育士として、毎日が学びの連続です。幼い頃から憧れていてやっとなることができた保育士。自分の憧れとする保育士に少しでも早く近付けるように、大好きな子どもたちとこれからも笑顔いっぱい過ごしていきたいと思います。